

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 1	10	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 73	79	ヘルパンギーナ	↑ 15	11
咽頭結膜熱	↓ 15	18	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↓ 23	27
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	→ 35	35	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 340	292	流行性角結膜炎 (はやり目)	↑ 17	14
水痘	↑ 47	21	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↑ 26	12	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	↑ 4	1	マイコプラズマ肺炎	↓ 4	5
突発性発しん	↑ 41	38	クラミジア肺炎	↑ 1	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- RSウイルス感染症
- 水痘

- 感染性胃腸炎は、報告数 340 件(前週報告数 292 件)と増加。地区別では、菊池、有明、山鹿に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の 48 件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- RSウイルス感染症は、報告数 73 件(前週報告数 79 件)と減少。地区別では、宇城、菊池、熊本に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の 27 件を最多に 4 歳以下からの報告です。
- 水痘は、報告数 47 件(前週報告数 21 件)と増加。地区別では、八代、宇城、天草に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の 14 件を最多に 9 歳以下からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所		29	8	18	101	17	11	4	12		1	8		10			2	1
山鹿保健所					23	1	1		1				*	*				
菊池保健所		12	2	6	65	3	8		7		3	1		2				
阿蘇保健所					1							1	*	*				
御船保健所					3								*	*				
八代保健所		5		3	24	13			6									
水俣保健所				3	4				2			1	*	*				
人吉保健所		4		1	27	1	3		3		5	1	*	*				
有明保健所	1	1	1		58	2			5		1			5				1
宇城保健所		17	1	2	22	5	2		4		1	5						
天草保健所		5	3	2	12	5	1		1		4	6						1
計	1	73	15	35	340	47	26	4	41	0	15	23	0	17	0	0	4	1

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	
インフルエンザ	1																					
小児科定点年齢	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	73	10	18	27	9	5	4															
咽頭結膜熱	15		1	4	1	4		2	1		1		1									
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35		1	2	1	3	1	1	10	7	1	4	2		2							
感染性胃腸炎	340	8	28	48	47	33	38	32	22	13	9	10	33	5	14							
水痘	47	1	6	14	5	12	5	1	1	1		1										
手足口病	26		4	13	2	1	2			1			1	1								
伝染性紅斑	4			1					2				1									
突発性発しん	41		23	17																		
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	15		4	3	3	2	2	1														
流行性耳下腺炎	23			1	5	4	3	2	1	6			1									
眼科定点年齢区分	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	17					1			1				1		1	3	2	3	2			3
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	4		1		1													2				
クラミジア肺炎	1		1																			

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

ありませんでした。

感染性胃腸炎が
増加しています!



今週の感染性胃腸炎の報告数は、前週より48件増え340件でした。毎年冬場に増加しますが、今年も例年より早い時期から増加しています。感染性胃腸炎の症状には、発熱、下痢、吐き気、嘔吐、腹痛などがあります。子供の場合、元気がなかったり、不機嫌な状態が続く時はすぐに受診してください。原因には様々なウイルス、細菌などがありますが、これからの季節はウイルスによるものが増加します。特にノロウイルスは感染力が強く、集団感染の原因になることがあります。先日、玉名市内の高校でノロウイルスによる集団発生がありました。医療機関や社会福祉施設、学校など集団生活の場では、下記のポイントを参考に、予防に努めてください。家庭においても流行する前から、しっかり予防に努めましょう。

～ノロウイルスを予防する4つのポイント～

- ①生ものは極力避け、85℃で1分以上加熱調理しましょう。
- ②調理の前、トイレやおむつ交換の後などは、必ずせっけんを使って手を洗きましょう。
- ③調理器具の使用後は、ときどき次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)に浸して殺菌しましょう。
- ④嘔吐物や便を処理するときは、マスクと手袋を着用し、周りを汚染させないようにしましょう。